

登録コード	HM118300	開講年度	2026				
授業題目	婦人科学特論				担当教員	宮本 強 他	
英文授業名	Selected Topics in Gynecologic Oncology				副担当	小原 久典・安藤 大史	
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室			授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				婦人科悪性腫瘍の特徴の理解		
(2)詳細/Detailed information	主要な婦人科悪性腫瘍である子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、絨毛性疾患についての発生メカニズム、臨床病理学的特徴、および分子生物学的特徴を理解し、研究に応用できるようになる。						
(3)授業の概要/Overview of course	オムニバス形式の講義、もしくは実習形式で行う。						
(4)授業計画/Course plan	1 回 子宮頸部の解剖、組織学的特徴、頸部の生理機能に関する講義 (担当：宮本) 2 回 子宮頸癌の疫学、病理、発生機序に関する講義 (担当：宮本) 3 回 子宮頸癌の手術療法、放射線療法、化学療法に関する講義 (担当：宮本) 4 回 子宮頸部悪性腺腫とLEGHに関する講義 (担当：宮本) 5 回 子宮内膜の構造、組織、生理機能 (担当：安藤) 6 回 子宮内膜増殖症、内膜癌の組織学的特徴 (担当：安藤) 7 回 内膜癌の発生機序、エストロゲンと内膜癌 (担当：安藤) 8 回 内膜癌に対する手術療法、化学療法、分子標的療法 (担当：安藤) 9 回 正常卵巣の構造、組織学と機能 (担当：小原) 1 0 回 卵巣癌の組織学的特徴と生物学的特性 (担当：小原) 1 1 回 卵巣癌の手術療法と化学療法、分子標的療法 (担当：小原) 1 2 回 子宮内膜症の癌化とSTIC理論 (担当：宮本) 1 3 回 子宮筋腫と子宮腺筋症 (担当：小原) 1 4、1 5 回 絨毛性疾患の病理と分子生物学的特徴 (担当：小原)						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法：レポート提出50%、課題発表50%により評価を行う。 成績評価の基準：(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep work/Textbook(s)/Reference work(s)	講義・実習日程は、学生と担当教官で協議して決定する。 教科書は特になし。						
(7)質問、相談への対応/Questions and requests for advice	質問・相談に対しては、口頭および文書（電子メールなど）を利用し、適宜、対応する。						
(8)授業の形式/Course format	パワーポイントでの教材を利用した講義、免疫染色等の実験を通した実習形式、論文演習等を各教官が行う。						